



散歩だより

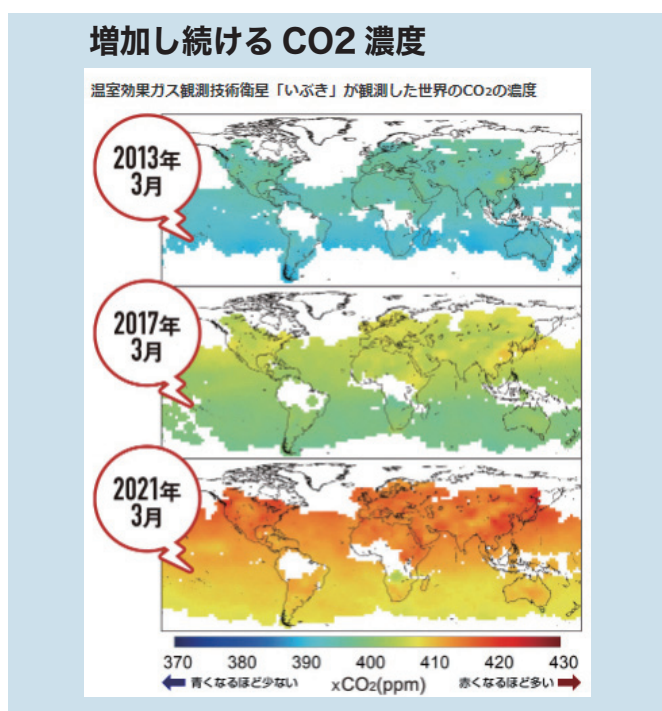


編集・発行 市民自治こがねい
〒184-0012
小金井市中町 1-2-47 佐藤気付
TEL: 090-6014-3566
<http://www.sijiko.com/>

小金井市の気候非常事態宣言が出されます

いまこそ緑を守り、歩いて暮らせる小金井へ

地球温暖化に起因する異常気象。最近では北海道で海水温の上昇による赤潮で秋サケやウニが大量死するなど、マジで気候危機対策待ったなし！です。



原初データの提供：JAXA/NIES/MCE

小金井市では来年1月1日の気候非常事態宣言に向けて準備が進んでいます。宣言案には22人から延べ47件のパブリックコメントが寄せられ、市民の関心の高さがうかがえます。

本来はまず非常事態宣言、そしてそれに基づいた推進計画を出すものですが、今年3月に発表された第2次小金井市地球温暖化対策地域推進計画を市民に定着させるための啓蒙的意味合いになるのでしょうか。

しかし、推進計画の柱となる削減目標「2030年までにCO2排出量を2013年比26%減」には国の目標に準じる以上の積極性はなく、しかもその国ですら4月の気候サミットで2013年比46%減の新目標を発表した今、すでに遅れたものになっています。

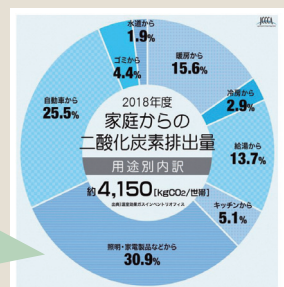
計画はまず私たちが最低限取り組むべきものと考え、そのうえで市に対しては、非常事態宣言を

受けて新しい目標値を設定し、さらにもう一步踏み込んだ施策を立てるよう求めてゆきましょう。

たとえば、歩いて行ける範囲に公園や緑地、生活に必要な商店や施設などがそろうネイバーフッドシティという考え方。パリの「自転車で15分の街」構想や、主要な施設へのアクセス20分以内の居住区を基本に都市を形成する「プラン・メルボルン」など、市民自治こがねいも提唱する「歩いて暮らせるまちづくり」に通じるものがあり、小金井でもとりいれてほしい。

小金井市の家庭におけるCO2排出量用途別では？

照明・家電製品などから 30.9%
自動車から 25.5%
暖房から 15.6%



出典：温室効果ガスインベントリオフィス
『日本の1990-2018年度の温室効果ガス排出データ』2020.4.14 発表

第2次小金井市地球温暖化対策地域推進計画に掲載。
小金井市は部門別のCO2排出量は、家庭が一番多い。次いで業務その他、運輸となっている。

また、デンマークのコペンハーゲンにある、ごみ焼却所兼発電所のコペンヒルは、屋上緑化にはとまらないユニークな建物。市民の憩いの場になっているそうです。

悲壮になるばかりでなく、楽しい未来を想像することで、エコでサステナブルな新しい発想が生まれるかもしれません。



コペンヒルではゴミ焼却の熱を発電に利用している。



排出量の削減とともに注目したいのは CO2 を吸収してくれる緑の保全です。小金井では、緑のはげが年々宅地化されています。市の条例でなんとかならないものか、あるいは所沢のトトロの森のようにナショナル・トラストで守るなど、市と市民が本腰を入れて取り組むべき段階にきていると思われます。

気になる、はげを縦断する都市計画道路と玉川上水沿いの木々の伐採については、現在どうなっているのでしょうか。

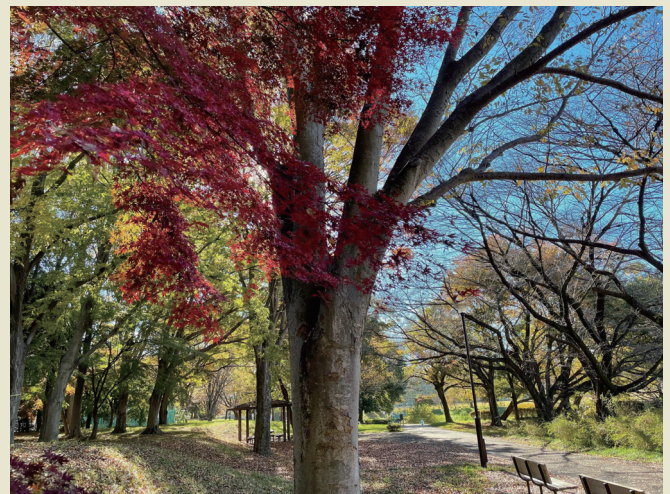
● はげを縦断する都市計画道路

小金井市の「都市計画マスタープラン」において、現行の計画には、優先整備路線に選定されている 3・4・1 号線は見直しの方針、3・4・1 1 号線は推進と明記しているが、現在策定中の案には 2 路線についての記述がなく、中間報告（案）では「東京都と連携して、地域のまちづくりの特性、整備済み着手路線との連続性、道路ネットワークの形成及び自然環境及び景観などの保全を勘案して、道路整備を計画的に進めます。」と簡略的にまとめられていた。「社会経済情勢及び地域のまちづくりの変化などを踏まえ、必要に応じて今後の方針を検討します。」との記述もあるが、あくまでも計画を進めると取れる内容になっている。両路線に跨ぐ「はげと野川」は小金井市らしさの「豊かな水と緑」を象徴する大切な自然環境であり、「環境共生のまちづくり」には欠かすことができないのではないかな。

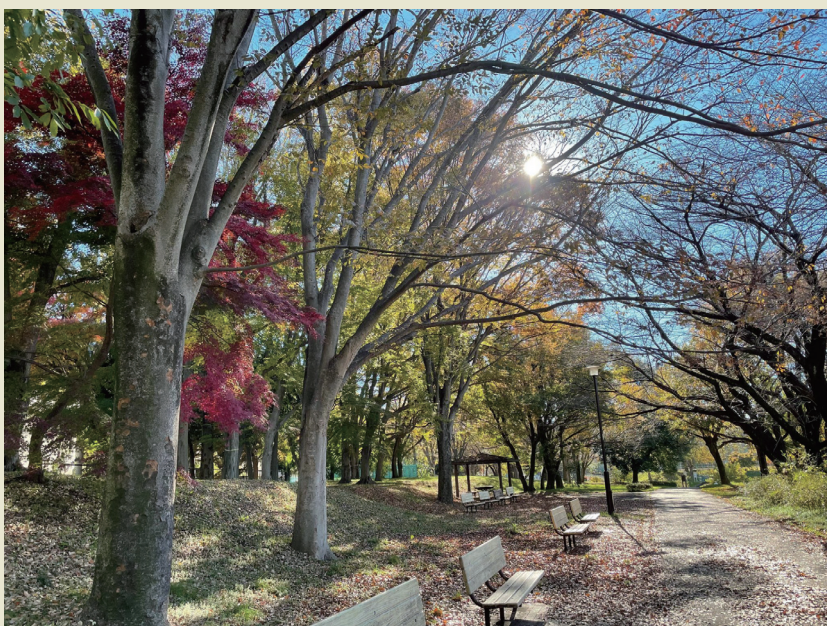
市では、「(仮称) 小金井市気候非常事態宣言」

発出が検討されており、気候変動による様々な異常気象が身近に迫っていることを認識し、市民・事業者・教育研究機関・行政が一体となり、地域をあげて地球温暖化防止に取り組む方針を示していることから、急激に拡大し加速、深刻化している気候変動を考えれば計画道路は中止するべきです。小金井市の宝である「水と緑」を守り、後世に繋げていきたい思いを強くするばかりです。

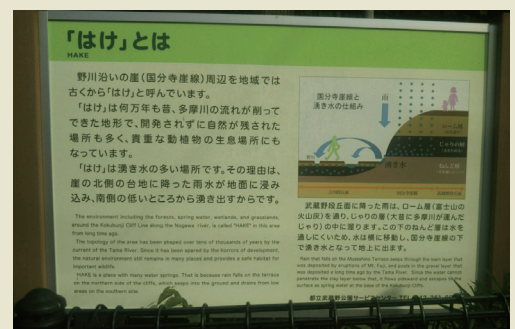
(東町／地権者)



水と緑は小金井の宝



都市計画道路予定地



●玉川上水沿いの木々の伐採について

玉川上水は、東京都水道局の「史跡玉川上水整備活用計画」によって維持管理され、水路・法面の保全や名勝「小金井（サクラ）」の並木の保存が行われており、さらに小金井市は「玉川上水・小金井桜整備活用計画」を策定し、「サクラ並木復活」のために、桜の生育を阻害する樹木を雑木とし伐採してきました。生物多様性の尊重を求める市民の声によりわずかに数本残された樹木もありましたが、ここ数年でほぼ皆伐されてしまいました。

これは近隣市の動きにも逆行するものです。2020年6月、小平市長は東京都に「サクラの補植作業には、生物多様性をもった適切な生態系が維持されるよう配慮してください」と要望しました。また2021年9月、三鷹市議会は「玉川上水の生物多様性を守ることを求める意見書」を可決、10月には三鷹市長が「生物多様性をもった生態系が維持されるように配慮をお願い申し上げます」と要望書を提出しました。

都市部である東京都の中にあるにみどりは貴重です。台風などによる倒木で近隣に影響が出ないように管理することは必要ですが、文化財保護という視点だけではなく、生物多様性の尊重や自然環境を活用した取り組みであるグリーンインフラという考え方をより重要視すべきです。

各市で活動している団体や市民が集まり、2021年1月1日に、玉川上水みどりといきもの会議が発足しました。市域を超え、市民へのお知らせや行政への働きかけなどを続けていきます。

（玉川上水近隣在住／小金井市玉川上水の自然を守る会）



サクラ以外ここ数年でほぼ皆伐



気になります、想定外の災害

地球温暖化に伴う異常気象により、これまでにない「想定外」の豪雨や山火事、地震など、災害が多発することが予想されます。その対策・備えなど、防災のことを考えてみました。



小金井市の唯一の防災公園でもある梶野公園

市の唯一の防災公園でもある梶野公園でも毎年行われている（今年で11年目）「梶野公園まつり」では、防災に関するさまざまな取り組みが行われています。

今年も、発災時に使われる設備（雨水タンク・災害用井戸・ソーラー電灯・耐震性貯水槽・災害用マンホールトイレ・



災害用マンホールトイレ

かまどベンチ）などを理解してもらうためのスタンプラリーをはじめ、楽しみながら防災を学ぶ仕掛けが満載でした。

市の公式ホームページでの防災情報は

<https://www.city.koganei.lg.jp/ku-rashi/472/bosai/bosaiservice/bousaijoho.html>

そこには防災マニュアル（避難所・自主避難所運営マニュアル、感染症対策方針）の記載もあり、備蓄情報なども掲載されています。チェックしておいてはいかがでしょうか。

都の防災アプリもあるようです。



Android



iOS

気になる市内の問題 イマドコ？

公立保育園廃園問題

7月28日の市議会厚生文教委員会の「行政報告」で突然明らかにされた公立保育園3園（くりのみ・さくら・わかたけ）の廃園方針と、それに向けて2園については2022年度の0歳児クラスの園児募集を止めるとの報告。



市立さくら保育園での園庭遊びの一コマ。園庭のある保育園は貴重とも言えるのに。

寝耳に水の事態に、保育園の保護者や卒園生の親などが動いて署名を集め、「利用者等との十分な協議・理解を得ないまま公立保育園の廃園への準備行為の中止を求める陳情書」が提出され陳述も行われました。陳情は全員一致で可決。

9月9日に市長は「段階的縮小の方針は堅持しつつ、1年延伸」と発言、来年度の0歳児クラスの募集は行うことと保護者への説明会を行うことを約束しましたが、廃園方針は撤回されていません。

これまで運営委託→移譲などについての検討もありましたが、園舎の修繕・建て替えの費用がないからいきなり廃園とは納得できません。

その後、「小金井市公立保育園の在り方検討委員会設置条例」が議員提案で提出されたり、市民からもまた別の陳情が提出されました。現在は、継続審査中です。

女性の人権侵害のアニメと市の対応

発端は、小金井市を舞台としたアニメの放送開始と関連イベントを小金井市が後援しアニメ放送までのカウントダウンに市長が加わったこと。

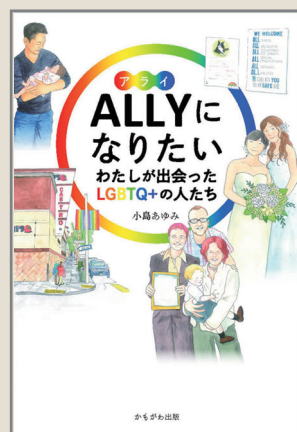
どんなアニメかと思いきや、スカートの下から盗撮したような映像などなどが・・・え～、これって女性の人権を侵害してるんじゃないの？

モロモロあって、「女性と人権を考える小金井の会」が男女平等基本条例の規定にある「苦情・相談申出書」を2020年12月に提出、2021年8月に調査結果が届き「(前略)従前のまま継続することは市の基本理念と異なり(中略)女性の人権を侵害する恐れがある状況を漫然と放置することになるものと考える。」との記載がありました。

それを受けて、「男女平等の基本条例の理念を尊重し、小金井市の施策や後援を適切に行うことを求める陳情書」を提出。現在、総務企画委員会で継続審議中。

パートナーシップ制度導入から一年

昨年10月20日に小金井市で性的少数者の人権が認められる第一歩「パートナーシップ宣誓制度」が始まり、一年がたちました。そしてパートナーシップ宣誓制度一周年と書籍「ALLY アライになりたい わたしが出会ったLGBTQ+の人たち」(小島あゆみ著 かもがわ出版)がこの9月に出版されたことを合わせ、10月10日に記念トークイベントが開催されました。場所は主催者「チェンジ東京! 小金井」の新しくオープンした事務所でした。ALLYとは、性的マイノリティの味方・支援者という意味で、この本には、著者の小島さんがALLYとしてアメリカ・日本の様々なLGBTQ+の人たちへ行ったインタビューが書かれています。当日は会場&ズーム参加で、会場には本に登場した方々等も参加



「ALLY アライになりたい わたしが出会ったLGBTQ+の人たち」(小島あゆみ著 かもがわ出版)

され、ズーム参加の人たちからも意見が出て、熱気のある雰囲気でした。駅近くの書店の書棚にこの本とこの



イベントのチラシが並んでいんでいるのを見た時にはうれしかったです。

今年の5月に、2015年に初めてこの制度を導入した渋谷・世田谷両区その他、中野・江戸川・豊島・港・文京・足立の計8区、府中・小金井・国分寺・国立の4市の全12市区と、制度を検討中の自治体に参加し、連携を目指して発足した「東京都パートナーシップ制度導入自治体ネットワーク」に小金井市も参加したことは良かったです。(桜町/若林)

編集後記

今年の夏も暑く、「気候危機」を実感した。映画「グレタひとりぼっちの挑戦」を見て、パワーをもらった。気候危機をそのままにしておけない!とたった一人で行動を始めたグレタさん。そして彼女の行動に呼応して、世界中の若者たちが立ち上がっている。ここ日本でも。久し振りに希望を感じた。(わ)

「市民自治こがねい」とは…

この小金井が、ひとりひとりの人権が尊重され、だれもが生き生き暮らし続けられる町であってほしい、この小金井を自治が息づく町にしたい。そのために市民自らが発信し、行動し、市政のあり方を変え、町づくりを進めていこう—そんな共通の思いをもつ市民たちのあつまりです。

会員を募集しています
&カンパ大歓迎!

- 会費 1口 = 3000円/年
- 賛助会員 1口 = 1万円/年
- ニュースカンパ 1口 = 1000円/年
- 郵便振替 00130-6-352041
市民自治こがねい



市民自治こがねい で検索!

<https://www.sijiko.com>